

暹羅國磐谷府から

暹羅國政府の招聘に應じ本年七月赴任の途につかれた元内務省東京土木出張所勤務の東森藏氏から左の如き通信に接した。

略

七月十日門司港出帆海上至て平穩涼風に迎へられつゝ七月廿一日朝無事磐谷に上陸仕候同廿四日より當國內務省土木局に於て勤務致居候間御安意被下度候。御承知の如く當地は熱帶圈内に介在し暑熱甚しく候へ共日本に於て想像する程度にては無之入國以來最高九十二度最低七十八度多くは八十二三度を示し目下雨季とて雨量多く風之れに伴ひ暑熱を緩和致候十一月よりは乾季に入り四月には太陽直上に迫り溫度百度に達することありとするも濕氣軽く爽風常にありて溫度の割合に暑熱を感ぜぬ趣承り候當市は暹羅國中

最も氣候良好の部に屬し日本人の居住にはよく適する様に思料仕候。當國の文化は磐谷に集中し中等學校あり大學は法文醫理に分科され理科中には建築土木等も含まれ候病院あり寺院は最も華麗を極め其の數大小百餘に達し。歴代のキング如何に佛教に努力せしか思ひ知るもの有之候。磐谷と地方とは産業交通衛生等文化の程度に於て著き隔りあり地方の開発は前途遼遠と申すべく候、磐谷の人口六十萬と稱し多様の人種の寄合にして其の過半は中華民國よりの移民にして經濟的に成効せるもの多きことは特筆に値するものと存じ候之に亞くものは即ち暹羅種に候、風俗習慣も多岐多様にて兎に角四季を通して夏服だけにて足るは一般の生活に至便なる一面に於ては之れが向上發展の素質を失はしむるものと愚察仕候。市街地にては殆ど鋪裝完了し路面

至て良好車の動搖少く又暑熱に對して路面の惡化すること
も尠く路幅は充分に候新市場にては並木の綠美特に目立ち
日本にて味ひ難き爽快を覺へしめ候幹線道路には電車（一
米ゲージ）運轉され自動車は市内だけにて六千臺に垂々と
し又之れに倍する人力車と共に交通の重き任務を致し候。
市街を貫流する「メナム」川は水面幅五百米濁流漲り四時
水量豊富水深五十尺に達する所あり舟行の利便甚大六七千
噸級商船が十數隻碇泊せること敢て珍からず候之れに連絡
する支川及運河と共に貨物集散上重大なる責務を負ひ磐谷
の文化に貢獻する所幾何なるを知らず候唯だ其の水位高く
市街の排水を防ぐるごと及百年河清を見ることなき汚濁に
對しては好意を持ち難く候。地震を知らざる國とて建築は
單純にて粗惡なる煉瓦積の外面に漆喰にて手際上手に化粧
せる瓦葺を高級とし木造トタン屋根の苦力小舎に至るまで
色々に候大建築は舊王朝時代に政府の造營に係るもの多く
民間に貸下げ又轉貸も行はれ候米産地なる爲に日本食はた
やすく得られ不自由無之果物は種類及量共に豊富に御座候

此の點最も仕合に存じ候

入國以來雨季に遭遇し地方視察困難なる爲磐谷以外の實
情を詳にせざるも農業鑛業及山林業は正に將來大なる開發
々展を期待し得らるるもの如くに候。土木事業に付ては
磐谷市を除き殆ど見るべきもの無之貫通幹線國道の唯た一
筋だに設けなきを以て其の一端を窺ひ知らるへく候産業的
に軍事的に暹羅國の急務中の緊要事項は先づ道路の完備鐵
道の延長に必死の努力を試むるにありと固く相信する次第
に候。先般の革命に於ては道路なき爲め戰鬥は多く列車と
列車の間に行はれしと承り候、政府は或は道路網の計畫に
或は標準設計の制定に或は規格材料の指定に或は土木試驗
所の擴張等に諸準備行爲に着手し土木的大發展を遂げんと
し待機中の様に候小生共（同僚稻垣君と）目下銳意標準設
計及規格材料指定に付き設計調査中に御座候。
言語は暹羅語を主とし支那英佛語使用され暹羅語は發音
複雑にして磐谷市内にても使用する人と場合に依りて言葉
に相違あり市内と地方とは又必ずしも同一ならず候。一般

に衛生状態は憂慮すべき程度にて上水道あれども絶対的信用なく煮沸水を飲用し下水の排除は「メナム」河水位高き爲め至て不完全に候悪疫の流行絶ゆること無之衛生施設の完備と市民の衛生思想の徹底を計る必要最も大なりと存し候。

當國には暴風なく従て災害少く候特に日本の災害多きことを痛恨し暹羅國外債總額壹億圓は日本の一ヶ年分の災害費に比敵するものに候同僚各位の御奮闘を希望する切實に候日暹間交通貿易は長足の進歩を來し將來尙ほ有望視するに至り候云々。

Department Of Public And Municipal Works, Division Of
Way Bangkok, Siam

東 森 藏

×—————×

太田道灌屏風の答

太田道灌が十五歳の時、父資清は或日道灌に向つて「余がつく／＼お前の様子を見るに、昔からお前の様な性質で、お前の様な顔付をした者で、禍難に、かゝらぬ者は少い、だから云ふことや行ふことに氣をつければ飛んだ災難にかゝるかも知れない、まあ物に比喩へて見ると、板塀でも垣根でも、眞直になつてゐるから立つてゐるのぢや、お前の様な、ひねくれ根性で曲つてゐては、塀や垣根が倒れる様になる」と誠めた所、道灌は早速一双の屏風を持つて來て、「父上この屏風は眞直すると倒れますが、曲げる時は立つて居ます」と答へた。